

<人として元気に生きるために活用=Nさんの胃ろう造設からまた学びました。>

私には、若いころからの親しい友人の M さんがいます。2年前に、お母さんの N さんを引き取り、施設(サ高住)にという話を聞き、その後 N さんへの訪問看護のお仕事を頂きました。

N さんは何と娘さんと瓜二つで元気で優しい笑顔の方でした。今年の6月に、誤嚥による肺炎で急遽入院に。1 カ月過ぎても肺炎が治らず、飲食が許可されず、点滴と転倒防止のために、拘束されたままの状態、面会時も天井を見ながら独り事。どうしたらいいだろうと困惑された声で相談がありました。

1 か月半飲食がないままやせ衰え、妄想と真剣に交流しているお母さんを見るのがどんなに辛かったことか。「肺炎が回復でき退院許可が出たら、胃ろうをしてたんぽぽのかんたきを利用しながら元気にしよう！」と提案しました。

M さんは、「え～胃ろう？」と浮かない返事でした。私が過去に体験発表した論文も含めて胃ろうの活用と弊害について色々説明する中、三姉妹で会議をして胃ろうをして経口からの飲食も勧めていくことを納得されました。



病院の退院と共に胃ろう造設もできてたんぽぽでの生活が始まりました。N さんの体調変化を判断して対応しつつ、デイ参加も生き生きと。歌やゲームに堂々の母の姿に M さんは感激のあまり玄関で嬉し涙でした。そしてお試しにアイス等を食べ、それも順調です。

こうした私共のチャレンジに往診医の先生は快く応援して下さい、本人に、「胃ろうをしてよかったね！」と話す N さん「ハイ！私の好きな食べ物はアイスと生ハムなの」と、すかさずに私共へ課題をぶっつけてきます。

胃ろう造設してくれた病院の先生は、初めての診察の際に、家族に、「94 歳の親に胃ろうすることは虐待なんだよ」と忠告もされたそうですが、ご家族は強い意志で胃ろう増設とかんたきでの生活を決断しました。

日々取り組んでいるスタッフとともに、励まし支えて下さる主治医の先生の存在は有難いなあと、心から感謝しています。



<残暑バテと秋バテ防止を考えてみましょう>

暑さが続き、体調不良から残暑バテという言葉も生まれています。対策にビタミンや蛋白質、根菜を多く入れたスープや味噌汁等を心して取り、ぬるま湯につかり、リラクゼーションも取り入れて、良い睡眠をとり、秋バテを防ぎましょう。

暑さ寒さも彼岸までといいますが、急な朝晩の温度差にも気を付けて下さいね。

予告編・・・第7回たんぽぽ日曜カフェ10月のご案内！

日時:10月20日(日)12:00～14:00

会場:ナースケアたんぽぽの家 初秋のひと時を楽しみましょう。



2024年9月15日

有限会社多摩たんぽぽ介護サービスセンター 取締役 千葉信子